

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム阿東園		
所在地	山口県阿武郡阿東町大字地福下286-1		
電話番号	083-952-5003	事業所番号	3578100434
法人名	社会福祉法人 友愛会		

訪問調査日	平成 21 年 8 月 7 日	評価確定日	平成 21 年 10 月 28 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人 非常勤 1 人 (常勤換算 8 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 18,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
その他の費用	月額	12,000 円		
	内訳	光熱水費		

### (4) 利用者の概要 (8月7日現在)

利用者数	8 名	男性	名	女性	8 名
	要介護1		要介護4		2
	要介護2	3	要介護5		2
	要介護3	1	要支援2		
年齢	平均 88 歳	最低 83 歳	最高 95 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 粟屋医院、済生会山口総合病院 歯科
-------------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	地域とのかかわりを積極的にしておられ、道の駅に利用者の貼り絵作品を展示したり、紅葉祭りには1年間の作品(ペン立て、腕ぬき等)を販売し、みんなで見学に行かれるなど、利用者の生きがい活動となるように支援しておられます。毎月1回利用者と一緒に行事弁当を作って外出されたり、毎年、家族と一緒に「母の日の集い」を盛大に開催しておられます。今年は5家族が参加され、後日、DVDに収録して全家族に送付され好評です。
(特徴的な取組等)	介護計画作成に当たり、前回の介護計画をコピーして全職員に配布し、利用者や家族の意向、評価、課題、改善点を記入し、毎月1回ケアカンファレンスを18時以降に開催して、それぞれの意見を反映した利用者本位の介護計画を作成され、利用者一人ひとりの状態に応じたケアに熱心に取り組まれています。

## 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	評価結果を職員会議で検討されています。相談機関として外部機関を明示したり、災害時の消防との連携などの改善に取り組まれています。
(今回の自己評価の取組状況)	あらかじめ全職員に自己評価書を配布し、職員会議で話し合っ管理者が取りまとめておられます。評価をサービスの質の向上の場として捉えられておられます。
(運営推進会議の取組状況)	2ヶ月に1回開催し、メンバーは、民生委員、老人会会長、婦人会長、町地域包括支援センター職員、家族代表、管理者、職員で利用者の状況や日々のかかわり、外部評価報告等について意見交換を行ない、運営推進会議を活かした取り組みをされています。
(家族との連携状況)	毎月「生活状況」帳に担当者が記入し、清算報告書を添えて家族に送ったり、3ヶ月に1回、利用者ごとの写真を掲載したホーム便りを発行して送付されています。面会時や電話等で暮らしぶりや健康状態などを報告し、写真を渡したり要望等を聞かれています。年1回「母の日の集い」を開催し連携を深めておられます。
(地域との連携状況)	地域の祭り、盆踊り、地域の運動会に参加されたり、福祉健康祭りに福祉センターに出かけたり、併設施設のデイサービスの催しなどに参加して地域の人と交流されています。近くの養護老人ホームに招待されて、利用者や職員が会食しながら交流されています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「ゆっくり、楽しく、和やかに」の理念に加え、地域密着型サービスとしての理念を全職員で検討し、「住み慣れた地域で、一人一人が明るく笑顔に満ち、安心安全な生活ができるように支援します」という理念をつくりあげている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、朝の申し送り等で理念を確認して共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の祭りや盆踊り、運動会などに参加し、道の駅の紅葉祭りでは、利用者の手作り作品を展示したり即売して地域の人と交流して楽しんでいる。近隣の養護老人ホームと相互訪問を行って、利用者や職員が食事会などで交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義を理解し、自己評価は、あらかじめ全職員に自己評価書を配布し、職員会議で話し合っ管理者が取りまとめている。外部評価の結果も話し合っ、出来るところから改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、民生委員、老人会会長、婦人会長、町地域包括支援センター職員、家族代表、管理者等のメンバーで、暮らしぶりや行事報告、外部評価報告等で意見交換をし、地域の参加者から災害時の協力も得られるなど、運営に活かしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム交流会に町の職員も参加しているので、処遇困難事例を相談したり助言をもらっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回「生活状況」帳や清算報告書を、3ヶ月に1回ホーム便りを送付している。面会時や電話等で暮らしぶりや健康状態、職員の異動などを報告し、写真を渡したり要望等を聞いている。年1回「母の日の集い」を開催して一緒に楽しみ、DVDに編集して家族に送付している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話、金銭出納の確認書の返信欄、運営推進会議等で家族の意見や苦情を聞き運営に反映している。苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、法人全体の「福祉サービスに関する苦情解決委員会規定」で苦情処理手続きを定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤8名、非常勤1名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みには、話し合いで勤務調整したり、特養からの応援体制を整備している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職は最小限に抑える努力をしている。異動の場合は、利用者によく説明し、不安を与えないように声をかけをし、重複勤務を数週間設けて、利用者へのダメージを防ぐよう配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた外部研修や内部研修を勤務の一環として提供している。新人養成は法人内の新人研修で行う計画がある。研修は復命し、ミーティングなどで、働きながらのトレーニングを心がけている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会やブロックでの勉強会に参加したり、平成20年4月に阿東町内の3グループホーム交流会を立ち上げて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>家族と相談しながら施設見学やお試しデイサービスを行って、他の利用者や職員と一緒に過ごしながら、馴染みの関係づくりをしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者から野菜の切り方、隠し包丁の当て方などを教わったり、調理の下準備、モップかけ、洗濯物干しなどを一緒に行かないながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>アセスメントシートからこれまでの暮らしぶりを把握したり、日々の関わりの中で、その時々言葉や気づいたことを記入して個別の保管ボックスに入れ、この時期の食べたいものや行きたいところなど、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族と相談したり職員間で話し合い検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>前回の介護計画を全職員にコピーして配布し、評価、課題、改善点を利用者や家族の意向などを踏まえて記入してもらい、毎月1回ケアカンファレンスを18時以降に開催し、チームで作る利用者本位の介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回見直しをしている。変化が生じた場合は、随時関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>協力医療機関への受診の送迎と付き添い、理美容出張サービスの利用の支援、自宅訪問・ふるさと巡り、買い物、ドライブ、外食等の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医への受診が出来るよう情報交換をしながら、適切な医療を受けられるように支援している。月2回精神科医が往診している。眼科等の受診は家族が同行している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族ごとに思いや意向が異なっており、早い段階から家族と話し合っその都度支援している。看護師や医師とも連携し全職員が共有している。家族の意向を大切に、よく話し合っているが、ホームとしての方針が家族へ周知されていない。	・重度化や終末期に向けた方針の家族への周知
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように職員間で気をつけている。穏やかに利用者本位のケアをしている。記録物は事務室に保管し個人情報の取り扱いに注意している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の大きなスケジュールはあるが、一人ひとりのペースを大切に、自由にその人らしい暮らしが出来るよう、希望に添って支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理し、おやつなどの希望を聞き、利用者の意向を反映した献立を作成し、畑で収穫された野菜の下ごしらえや後片付けなどを一緒に行っている。職員も一緒に弁当や同じ食事をしながら、おしゃべりをしながら食事が楽しめるよう支援している。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、14時からお湯を沸かし、半数交代で入浴している。入浴はコミュニケーションを図る絶好の場として活かしながら、入浴が楽しめるよう支援している。希望に添って、毎日の入浴やシャワー浴も行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	しだれ桜見物や紅葉祭り、お花見、毎月1回の行楽弁当作り、ドライブ、はり絵、道の駅への作品展示や即売、園芸、食事の準備、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、気晴らしや張り合いのある暮らしができるように支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブ、畑づくりなど、一人ひとりのその日の希望に添って外出の支援をしている。法人のデイサービスセンターに行き、お茶を飲んだり、歌を歌ったり、地域の人とも交流している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人内研修で職員は正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を正しく理解しており、見守り体制をとって、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら職員が同伴している。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、ヒヤリはっと報告書、事故報告書に記入し、改善策を検討して、一人ひとりの状態を把握し、介護計画に採り入れて事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、連絡体制等を整備している。法人の看護師が応急手当等の訓練を実施しているが、定期的な訓練には至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、消防・避難訓練を実施している。消防署と連携したり、運営推進会議で地域の協力を得ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の処方個人台帳に綴じて職員がいつでも確認できるようにしているが、効用や副作用の記載が乏しい。薬はその都度手渡しして服用を確認している。必要な情報は看護師や医師にフィードバックしている。	・薬の効能、副作用についての理解と職員の共有
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアを実施し、毎週歯ブラシや義歯の清掃をして支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量を記録し、法人の栄養士に相談しながら、一人ひとりの状態に応じた食事の支援をしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、手洗いやうがいを励行している。毎日手すりの消毒を行い、まな板やふきん、包丁はその都度消毒している。インフルエンザの予防接種は、利用者や職員の全員が受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関は、家庭の玄関のように工夫され、居間などの共用空間は広く、どこからも自然豊かな景色が眺められる。壁には行事の写真や利用者の貼り絵の大作が掲示され、季節の花が飾られ、人の温もりにあふれている。広いウッドデッキに出ると、畑や道、山肌が眺められ、生活感や季節感が感じられる。明るく、室温調節もよく、快適に過ごせるように工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	部屋から外の景色が眺められ、馴染みの家具や椅子、テーブル、写真などが持ち込まれている。各部屋は洋室であるが、半分のスペースに畳を敷いている利用者もあり、自由に模様替えて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム阿東園
所在地	山口県阿武郡阿東町大字地福下286番の1
電話番号	083-952-5003
開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

### 【実施ユニットの概要】 (7月20日現在)

ユニットの名称	グループホーム阿東園				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名		
	要介護1	0	要介護4	2	
	要介護2	4	要介護5	2	
	要介護3	1	要支援2	0	
年齢構成	平均 86 歳	最低 76 歳	最高 95 歳		

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価について、職員の意見を聞きながら、全体をまとめて評価した。
評価確定日	平成 20 年 7 月 25 日

### 【サービスの特徴】

個人個人のありのままの言葉、感情、想いをしっかり受けとめ、その時その時を、楽しくゆっくりと安心して生活していくことが、認知症の進行をゆっくりとしたものにしていくと思います。本人が楽しい、うれしいと感じる場面場面にたくさん関わり、ともに生活していくことが大切だと思います。個人のできることを、できるように支援していきたいと考えます。また、地域行事へ積極的に参加し、地域との関わり、地域  
の他グループホーム同士の交流を深め、地域に根ざすグループホームになり、地域全体に認知症への理解、協力をもとめていきたいと思っています。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	○ <b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	常に理念の意識づけをしていくことにより、日々のケアに反映されるよう取り組んでいきたい。
3	○ <b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	○	地域に対してのホームの役割を職員全員が理解し、実地にむけて日々とりくんでいきたい。
4	○ <b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	○	職員間でよく話し合いながら、価値観(思い、願い)、情報の共有のもと、個々のケアに関わっていきたい。
5	○ <b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	○ <b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	○ <b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	○	地域住民に対して、認知症を理解してもらうための認知症ケアの啓発をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	<p><b>○評価の意義の理解と活用</b>            運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
10 (5)	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>		
11 (6)	<p><b>○市町との連携</b>            事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
12	<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	○	制度について学ぶ機会をつくりたい。
13	<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	<p><b>○契約に関する説明と納得</b>            契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		
15	<p><b>○運営に関する利用者意見の反映</b>            利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		
16 (7)	<p><b>○家族等への報告</b>            事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>		家族に対して、月1回たよりを発行し、生活、身体状況について報告している。請求や金銭出納についても知らせており、確認印の返信をもらっている。面会時には近況の報告と一緒に写真を撮ったりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p><b>○情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p><b>○運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p><b>○柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p><b>○職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
22 (11)	<p><b>○職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p><b>○職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>	○	男性職員や、若い人が少ないので、年齢層の多様化を図りたい。
24 (12)	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		地域のグループホーム交流会を発足し、意見交換や情報の交換、勉強会を行っている。それぞれのホームでのサービスの質の向上に役立っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p><b>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</b>            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
26	<p><b>○向上心を持って働き続けるための取り組み</b>            運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p><b>○職員の業務に対する適切な評価</b>            運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
28	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b>            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
29	<p><b>○初期に築く家族との信頼関係</b>            相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
30	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b>            相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31 (13)	<p><b>○馴染みながらのサービス利用</b>            本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
32 (14)	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b>            職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p><b>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p><b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
38 (15)	<p><b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p><b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p><b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	○ <b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、関係者間で話し合い、本人にとってよりよいケアを提供していくよう努めている。	
42 (17)	○ <b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画期間及び、随時に見直し、実状に応じた介護計画を作成している。	
43	○ <b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員が個々に関わったケアについて記録し、情報を共有しながら今後のケアに活かしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	○ <b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力医療機関があり、また、施設看護師との医療連携による健康管理も整っている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	○ <b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて、協力を得られ支援している。今年は婦人会の慰問をお願いしている。	
46	○ <b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	見学希望者の受け入れはできている。	
47	○ <b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居者の希望により、訪問理美容サービスを利用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p><b>○地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><b>○認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><b>○看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><b>○早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p><b>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	<p>家族との連携を深めるとともに、本人にとって何がよいのかを職員間で話し合いながら生活を支援していきたい。</p>
55	<p><b>○住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
	<p>都度対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 (21)	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	日々の関わりの中から、その場面や記録に対して職員間で指摘しあったり、注意し合いながら、おたがいの意識の向上に努めている。	
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いや希望をあらわせるようゆっくり声かけし、納得のいく生活ができるよう支援している。	
58	○ <u>“できる力”を大切にした家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	本人のできる能力を探りながら、生活場面において十分に発揮できるよう支援している。	
59 (22)	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	個々人の生活ペースにあわせるとともに、本人のしたいことを理解して希望にそった支援をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	整容については、本人の希望を考慮したうえで、できるだけ望むよう努めている。	
61 (23)	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものとか、好みを聞いたりしている。準備やかたづけなど、できることを一緒にしている。職員も一緒にテーブルで食事し、楽しい雰囲気を作るようにしている。	
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	都度好みのものを聞きながら楽しみのあるおやつ、食事を提供している。	
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄状況を把握し、できるだけおむつの使用を少なくするよう職員間で話し合い、都度対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		
65	<p><b>○安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
66 (25)	<p><b>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	○	今後も職員全員が本人の生活歴を充分に把握し、本人のやりたいことを見つけるよう努めていきたい。
67	<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	○	買物の際には、支払いをお願いし、金銭感覚を忘れないようにしていきたい。
68 (26)	<p><b>○日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	○	同郷者と一緒にでかけたり、ホームの買い物に出かける機会を多くもちたい。
69	<p><b>○普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	○	年々高齢化し、体調低下に伴い外出の機会や、外出者が限られてしまうが、できるだけ希望にそって支援していきたい。
70	<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p><b>○家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p><b>○家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 ○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	お便りの中にも、各行事を紹介し、家族参加を呼びかけている。楽しみに待っておられる家族もおられる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
74 (27) ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	施設内研修において、拘束についての理解をしており、職員全体で取り組んでいる。		
75 (28) ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員全員が見守りの方法を徹底し、自由を奪わないよう支援している。その場を離れるときは職員間での引継ぎを徹底している。		
76 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	本人のプライバシーに配慮しながら、所在確認の徹底に努め安全に配慮している。		
77 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	それぞれ状況に応じ、危険防止に取り組んでいる。		
78 (29) ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人の状態を把握するとともに、事故についての対応マニュアルを職員全員で徹底し、事故防止に取り組んでいる。		
79 (30) ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	施設看護師の協力を得て、救急対応の訓練を行っている。		
80 ○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	報告書にまとめるとともに、原因を探り、今後に対応について都度職員間で改善方法を話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火訓練を年2回行っている。運営推進会議において消防や地域の協力を得ることの理解を得ている。	○	地域消防指導のもと、実地訓練を行う予定である。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族来訪時や体調低下の際には、十分に説明をして安心して生活がつづけられるよう話し合っている。	○	今後とも日ごろから、家族との連絡を密にしていきたいようにする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の生活状況を把握しつつ、体調の変化にもすぐに対応できるよう職員間での情報の共有を行っている。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員全員が、既往歴と現在の健康状態を台帳にまとめており、服薬中の薬と効能、副作用等いつでもわかるようにしている。また、都度変更になった薬なども記録し直し対応している。体調面の変化については看護師や医師に連絡している。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個人における排便状況を把握し、個人に応じた取り組み(水分、食事内容、運動、)を行っている。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後歯磨き、うがいを徹底している。定期的にコップ、歯ぶらしの消毒、交換を行っている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を記録しており、個人の食事量を把握している。食事のすすまない人については施設の栄養士と相談して対応している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、施設内研修等で学習し徹底している。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まないた、布きん、包丁は使用都度消毒している。また、食材についても鮮度のあるものを購入し、調理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
90	<b>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	出入りしやすいよう工夫している。季節に応じた草花を置き、気持ちよい空間をつくっている。	○	玄関前にテーブルと椅子を置き、会話したり一休みできる空間をつくりたい。
91 (36)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ほっとやすらぐような家庭の温かさが感じられるような雰囲気をとりに、季節、行事にあわせたものを配置している。音の大きさや照明度は都度入居者の意向を確認しながら調整している。		
92	<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル位置などみんなと一緒に過ごす時と、ひとりで過ごすこともできるよう工夫している		
93 (37)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、ベット、椅子、テーブルや写真、絵画、置物等馴染みのあるものを持ち込んでもらい、本人が落ち着けるような空間をつくっている。		
94	<b>○換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	その日の状況に応じて、室温の調整を行っている。それぞれの入居者の身体状況によっても室温調整に違いがあり、換気にも気をつけている。		
95	<b>○身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	トイレ内に手すりをつけたり、便器後ろに背もたれをつけている。浴槽が深く大きいので、底にすのこを置き入りやすく工夫している。		
96	<b>○わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者同士の関わりも手伝い、お互いに話し合ったり、気をつけ合ったりしながら、それぞれの生活が成り立っている。		
97	<b>○建物の外周りや空間の活用</b> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	散歩したり、ベランダで鉢植え作業したり、園庭でレクリエーションを楽しんだりし、一緒に活動できるスペースになっている。		